

感染制御部

1. スタッフ構成

○井上 考司;感染制御部長

【院内感染対策チーム(ICT)】

○井上 考司;院内感染対策チーム(ICT)委員長

<医局>

○本間 義人、中瀬 浩一、渡邊 常太、佐藤 裕一、越智 史博、
宇都宮 健

<看護部(ICN)>

○岩本 悟志、若林 美代子、宇都宮 麻美子、日野 恵子

<薬剤部>

○戸田 亮子、古田 光平、明下 佳祐

<検査部>

○芝田 将、川口 桃花

<事務局>

○山口 雅彦

【抗菌薬適正使用支援チーム(AST)】

○本間 義人;抗菌薬適正使用支援チーム(AST)委員長

<医局>

○井上 考司、越智 史博

<看護部>

○岩本 悟志、若林 美代子

<薬剤部>

○末廣 拓、新居田 能章

<検査部>

○森 理恵、村上 悠里子

<事務局>

○山口 雅彦

2. 認定資格取得

資格名	資格取得者
ICD制度協議会インфекションコントロールドクター	井上考司、渡邊常太、中瀬浩一、本間義人、越智史博
日本感染症学会感染症専門医	井上考司、本間義人、越智史博
日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医	渡邊常太
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育医	渡邊常太
日本小児感染症学会小児感染症認定医	越智史博
日本小児感染症学会小児感染症認定指導医(専門医)	越智史博
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医	中瀬浩一、越智史博
感染制御認定臨床微生物検査技師 制度協議会感染制御認定臨床微生物検査技師	村上悠里子
日本看護協会感染管理認定看護師	岩本悟志、日野恵子、宇都宮麻美子、若林美代子

3. 運営方針

感染制御部は、病院感染の防止に留意し、感染症発生の際には、拡大防止のためその原因の速やかな特定、制圧、終息を図ることを目的とし、院内感染対策チーム(ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)がその実践を担っています。

(1) 院内感染対策チーム(ICT)

医療関連感染の予防、早期発見、拡大防止のため、調査・指導・啓発・周知徹底を促し、病院全体の感染対策の充実に努めます。

(2) 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)

薬剤耐性対策として、抗菌薬の使用状況の把握と適正使用に向けた推進活動、感染症診療の支援活動を行います。

4. 実績

【ICT 実績】

(1) 会議:毎週1回(計50回)開催

① 微生物検査技師

MRSA、薬剤耐性菌、血液、カテーテル先端培養陽性患者、結核菌や食中毒菌等、その他重要な微生物の検出状況を報告しました。

② 薬剤師

抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬を長期使用(14日以上投与)した症例について報告しました。

③ 医師

上記の報告を基にラウンドを実施し、報告しました。

- ・ MRSAラウンド:162件
- ・ ESBL産生菌ラウンド:131件
- ・ MDRPラウンド:1件
- ・ CREラウンド:1件

④ ICN

ラウンド結果やコンサルテーションほか、感染管理に関わる事項について報告しました。

(2) ICT 環境ラウンド:毎週(計50回)

病棟部門は月1回以上、それ以外の部門は2か月に1回以上、4職種でラウンドを実施し、ラウンド後に結果を報告しました。

(3) 感染症対応

薬剤耐性菌、クロストリディオイデス・ディフィシル感染症、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎、その他院内感染対策上問題となる微生物が検出された場合などに、関連部署への情報共有と指導を行いました。

(4) 職員教育の実施

- ・ 感染対策研修会の企画・運営
- ・ 感染対策リンクスタッフ会の運営(年6回)

(5) 院内感染対策マニュアルの改訂

(6) 医療関連感染サーベイランスの実施

- ・ 厚生労働省感染症サーベイランス事業(JANIS)のNICU部

- 門、検査部門入院患者部門、手術部位感染(SSI)部門への参加
 - ・ 薬剤耐性菌、インフルエンザ等の病原体・感染症サーベイランスの実施
 - ・ 手指消毒剤払出量サーベイランスの実施
 - ・ 針刺し・切創、血液・体液曝露サーベイランスの実施
- (7) 職業感染防止策の実施
- ① 各種抗体価検査とワクチン接種
 - ・ 新規・中途採用者に対するB型肝炎ウイルス抗体検査の実施
 - ・ 新規・中途採用者に対する麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体検査の実施
 - ・ B型肝炎ウイルス、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体陰性者のリストアップと対象者へワクチン接種の実施
 - ・ 全職員を対象にインフルエンザワクチン接種の実施
 - ② 結核曝露後対応
 - ・ 結核曝露事例:なし
 - ③ 針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露後対応
 - ・ 針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露事例:24事例
 - ④ 針刺し予防のための取り組み
 - ・ リンクスタッフが在籍する部署で発生した事例に関して、各部署とリンクナース会で事例検討を実施後、再発防止策を検討・周知
- (8) 標準予防策・経路別予防策の遵守向上への取り組み
- ・ リンクスタッフがチェックシートを用い、各部署の手指衛生の手順遵守状況を調査
- ・ リンクスタッフが中心となり、手指消毒剤使用量の調査と使用量増加に向けた取り組み
 - ・ 感染対策リンクナースコアメンバーによる手指衛生評価(WHO直接観察法による評価)
- (9) 感染対策向上加算 2(南松山病院),3(松山西病院)算定施設との合同カンファレンスの開催
- ＜実施日と主なテーマ＞
- ① 2023年2月9日(2022年度 第3回)
 - ・ 手指衛生遵守状況について
 - ・ COVID-19患者対応時の感染対策について
 - ② 2023年3月9日(2022年度 第4回)
 - ・ 微生物検査状況について
 - ・ 抗菌薬使用状況について
 - ③ 2023年7月6日(2023年度 第1回)
 - ・ 感染対策向上加算の施設基準について
 - ・ 各種データの共有方法について
 - ・ 手指消毒剤使用量について
 - ④ 2023年10月31日(2023年度 第2回)
 - ・ 南松山病院の院内ラウンド
 - ・ 新興感染症の発生を想定した訓練
- (10) 感染対策向上加算 2,3 算定施設への訪問指導
- ・ 松山西病院:3回(2月14日、3月14日、5月29日)
 - ・ 南松山病院:1回(10月31日)
- (11) 感染対策向上加算 1 算定施設との相互評価
- ・ 評価受審:① 1月27日 愛媛大学医学部付属病院
 - ・ 評価実施:① 2月20日 松山赤十字病院
 - ② 11月14日 四国がんセンター

■ 感染対策(ICT・AST)研修会

開催日	テーマ	講師	対象者	参加
2月6日～ 3月31日	(e-learning)院内感染対策必須研修 「抗菌薬を大事に使う～AMRに立ち向かうために～」	大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座 教授 忽那賢志	全職員	1,515名
3月20・22日	院内感染対策必須研修 「抗菌薬を大事に使う～AMRに立ち向かうために～」	大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座 教授 忽那賢志	愛媛ホスピタルパート ナーズ、協力企業	182名
4月3日	新規採用者等オリエンテーション 「院内感染防止対策」	感染制御部長 森高智典、 感染管理認定看護師 岩本悟志	新規採用、転入職員	
4月17日	新人看護師II期研修「標準予防対策」	感染管理認定看護師 岩本悟志	新規採用看護師	55名
5月8日	検査部学生オリエンテーション 「院内感染対策」	感染管理認定看護師 岩本悟志	検査部実習生	
5月22日	手指衛生遵守率向上に向けた取り組み(目標・計画立案について)	感染管理認定看護師 岩本悟志	院内感染対策リンク スタッフ	31名
9月13日	カテーテル関連血流感染について、新型コロナ ウイルス感染症について	感染症内科主任部長 本間義人、 感染症内科医長 鶴田寛二	小児科医師、 小児病棟看護師	
10月13日	研修医勉強会 「インフルエンザワクチン接種について」	感染管理認定看護師 岩本悟志	研修医	
11月6・11日	看護補助者研修「感染予防の基礎知識」	感染管理認定看護師 日野恵子	看護長付事務作業補助者	
12月1日	看護補助者研修「感染予防の基礎知識」	感染管理認定看護師 日野恵子	夜間派遣看護補助者	
11月15日～ 1月20日	(e-learning)院内感染対策必須研修 「コロナマニュアルを見てみよう～院内感染対 策マニュアル 2023年10月改定版の内容～」	感染管理認定看護師 岩本悟志	全職員	1,528名
12月18・27日	院内感染対策必須研修 「コロナマニュアルを見てみよう～院内感染対 策マニュアル 2023年10月改定版の内容～」	感染管理認定看護師 岩本悟志	愛媛ホスピタルパート ナーズ、協力企業	196名

【AST 実績】

(1) 抗菌薬適正使用支援に係る実績

- ① 感染症治療の早期モニタリングにおいて主治医へのフィードバックを行った件数:705 件

(AST へのコンサルテーション件数+血液陽性ラウンド対象患者件数+TDM 実施件数)

- ② ①のうちフィードバックの結果、抗菌薬の適正使用につながった件数:624 件

(2) 会議：毎週 1 回(計 50 回)開催

- ① 微生物検査技師

耐性菌検出状況の報告、血液培養陽性事例のラウンド依頼、アンチバイオグラム作成等を実施しました。

(4) アンチバイオグラム

■ グラム陽性球菌

感受性率 0～49%: 50～79%: 80%～:

菌/薬剤	株数	PCG	ABPC	AMPC	CEZ	IPM	MEPM	GM	ABK	EM	CAM	CLDM	TC	CP	MINO	VCM	TEIC	LZD	FOM	OFLX	ST	CTX	CTRX
MRSA	195	0			0			61	100	18		27			68	100	100	100	77		100		
MSSA	602	42			100			68	100	82		87			97	100	100	100	99		99		
MRSE	53	0			0			38	100	58		74			94	100	87	100	72		85		
<i>Enterococcus faecalis</i>	318	100	100							12					26	100	100	96					
<i>Enterococcus faecium</i>	71	34	34							10					77	100	100	99					
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	70	59		97		76	67			21	21		27	96		100			96	84	94	94	

注) 1 か月、1 患者、1 材料を 1 件として集計

■ グラム陰性桿菌

菌/薬剤	株数	ABPC	PIPC	CPDX	CEZ	CTM	CTX	CFPM	CAZ	CMZ	IPM	MEPM	ACV	GM	AMK	MINO	FOM	CPFX	LVFX	ST	CTRX	CDTR	S/A	CAM	CP
<i>Escherichia coli</i>	707	70	76	95	95	96	97	100	96	97	100	100	90	94	100	94	99	72	65	88					
<i>Escherichia coli</i> (ESBL)	157	0	0	0	0	0	0	0	0	99	100	100	74	87	100	88	99	8	5	65					
<i>Klebsiella sp.</i>	407	0	0	99	76	99	100	100	100	99	100	100	98	100	100	91	73	95	91	93					
<i>Klebsiella pneumoniae</i> (ESBL)	5	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100	100	20	40	100	0	100	0	0	0					
<i>Klebsiella aerogenes</i>	62	0	81	81		0	82	100	84	0	79	100	0	100	100	89	69	98	98	97					
<i>Enterobacter sp.</i>	165	0	79	77		1	80	100	80	1	91	99	1	100	100	91	28	90	89	96					
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	249		89			2	2	91	91		93	93		95	97			92	85						
<i>Haemophilus influenzae</i>	145	32				53	100	86				100	80			100		99	100	43	99	99	67	74	100

※*Klebsiella pneumoniae* (ESBL): 菌株数が規定以下のため参考値

注) 1 か月、1 患者、1 材料を 1 件として集計

5. 2024 年度目標

(1) ICT

医療関連感染サーベイランスや院内ラウンドにより、院内の感染対策の現状把握と改善に努め、アウトブレイクの早期発見・介入を行います。

- ・ 職業感染予防に努め、職員の安全を守ります。
- ・ 病院職員・患者さんへ感染対策に関する啓発・指導・教育を実施します。
- ・ 感染対策に関する各種コンサルテーションに対応し、問題解決に向けて取り組みます。

(2) AST

- ・ 各種ラウンドやモニタリング等により、抗菌薬の適正使用を推進します。
- ・ 院内の抗菌薬使用状況の把握に努め、耐性菌の保有圧を下げます。

② 薬剤師

同一抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬を 14 日以上長期投与した症例の報告とラウンド対象者をリストアップし、介入を依頼しました。

③ ICD

上記の報告を基にラウンドを実施し、報告しました。

- ・ 血液陽性者ラウンド:448件/年
- ・ ASTコンサルテーション:228件/年

④ ICN

ラウンドやコンサルテーションに関わるモニタリング、介入状況について確認しました。

(3) 研修開催

ICT と共催で研修会を開催しました。

妊婦の経膈分娩は 2 次感染のリスクか. 第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会. 横浜 (2023.7.20-22)

2. 新居田能章、稲見有、田辺宗一郎(愛媛県立新居浜病院薬剤部). 持参薬鑑別時の手指衛生についての現状調査. 第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会. 横浜 (2023.7.20-22)

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 岩本悟志、宇都宮麻美子、日野恵子、若林美代子. SARS-CoV-2 陽性